

児童発達支援センター事業業務委託に係る公募型プロポーザル提案評価基準

1 提案の評価方法

(1) 評価基準の適用

本評価基準については、本プロポーザルの審査において適用する。

(2) 評価方法

選定委員は、別記「評価基準表」の「評価の視点」に基づき評価する。

評価の段階の基準は次のとおり。

段階	評価の段階の基準	点
A	「評価の視点」の内容等が具体的な記載により網羅されており、その内容が実践可能かつ効果的であるなど、特に優れている。	5点
B	「評価の視点」の内容等が具体的な記載により網羅されており、その内容が実践可能かつ効果的であるなど、優れている。	4点
C	「評価の視点」の内容等が具体的な記載により網羅されている。	3点
D	「評価の視点」の内容等の具体的な記載が不十分である。	1点
E	「評価の視点」の内容等に関して、具体的な記載がないなど、著しく不十分である。※代案の提示等により補完している場合は、不足がないものと取り扱う。	0点

(3) 順位について

ア 選定委員ごとに合計点に基づく提案者の順位を決定し、順位点を算出する。

ただし、以下の場合には「選外」と取り扱うものとし、次のイから除外する。

①「選定委員の全員の合計点が、満点の6割に満たない場合」又は「3名以上の選定委員が、満点の6割に満たない採点をした場合」に該当する場合

②評価中に「E」がある場合

イ 順位点は次のとおりとする。

順位点	1位…5点、2位…3点、3位以下…0点
-----	---------------------

ウ 選定委員全員の順位点の合計点に基づき、審査における提案者順位を決定する。

(4) 順位点が同じであった場合の取り扱い

次のとおり上位者を決定する。

ア 評価基準表の合計点が高い者

イ アが同じであった場合、評価基準表中の「企画提案」の合計点が高い者

ウ イが同じであった場合、評価基準表中の「業務遂行能力」の合計点が高い者

エ ウが同じであった場合、評価段階Aの数が多い者

オ エが同じであった場合、評価基準表中の「独自提案事項」に係る点数が高い者

児童発達支援センター事業業務委託に係る公募型プロポーザル提案評価基準

評価項目	評価事項	企画提案書No.	配点	評価の視点
業務遂行能力	法人の目的・理念	1	5	・法人の目的・理念が明確であり、本業務の趣旨と親和性があるか。
	関連業務の実績	2	5	・発達に不安や特性のある児童及びその保護者への支援について、本事業に生かせる十分な実績・経験・ノウハウを有しているか。 ・園、学校、行政等との連携実績があるか。
	事業運営の継続性・安定性	3	10	・財政状況及び組織体制が安定しており、本事業を継続的・安定的に実施できると認められるか。
	経費の妥当性・効率性	4	10	・支援の質を確保しながら効率的な事業運営を行う工夫があるか。
	実施体制及び育成	5	10	・必要な専門性を有する職員が適切に配置されているか。 ・受託開始に向けた研修・準備が十分に計画され、事業開始後も継続的に職員の専門性を高める仕組みがあるか。
	職員処遇及び人材確保	6	10	・職員の処遇改善や採用・定着に向けた具体的な取組が示されているか。 ・欠員等が生じた場合にも安定して事業を継続できる体制があるか。
	安全管理・リスク管理	7	5	・災害・事故・急病等の対応、虐待防止、送迎・引渡し等を含め、児童の安全を確保するための適切な体制・対策が講じられているか。
企画提案	事業方針 支援方針	8	10	・本事業の目的・役割を十分に理解しているか。 ・発達に不安や特性のある児童及びその保護者の状況を把握した上で、具体的かつ実現可能な支援計画・支援内容・プログラムになっているか。
	支援の創意工夫	9	10	・家族支援の充実（保護者への相談・情報提供・ペアレントトレーニング等の具体的な取り組み）のために創意工夫がされているか。 ・家族全体のことを考え、不安や悩みに寄り添った支援等の実施計画となっているか。 ・利用者のみならず地域に開かれた家族支援となっているか。
		10	10	・インクルージョン推進のために創意工夫がされているか。 ・地域社会全体に働きかける中核機関であることを踏まえた取組みとなっているか。 ・保育園・学校等との連携・交流が具体的な計画となっているか。
		11	10	・地域の中核機関として、医療・保健・福祉・教育等の関係機関との連携において創意工夫がされているか。 ・地域全体で支えるために、地域の支援者の専門性・対応力を高めることができているか。
		12	10	・市単加算の減額の見直しにおいて、創意工夫がされているか。 ・減額の見直しができなかった場合においては、その理由が正当であるか。
		13	10	・段階的な縮小又は終了に向けた計画が具体的であり、実現可能であるか。 ・既存利用児童の支援の質を維持できているか。 ・既存利用児童の他事業所等への移行支援、保護者説明、関係機関調整の対応が具体的であり、実現可能であるか。 ・課題等をしっかりと把握できているか。
	独自提案	14	5	・法人の専門性、経験及びノウハウを生かした提案であり、本業務の目的に合致し、効果、実現可能性及び継続性が期待できるか。
合計			120	

※ 番号3・4・5・6・8・9・10・11・12・13は、評価段階における点を2倍する。
例えば、評価段階「A」の場合は、5点×2＝10点となる。